

研究 Report



No. 5 令和3年12月 池袋本町小学校

11月17日(水)に2年3組で5回目の研究授業を行いました。今回の授業では、よくないことを見たり聞いたりしたとき、どうすればよいかについて考え、よいと思うことを進んで行うための実践意欲と態度を育てることを目標として設定しました。よくないと思って、知らないふりをしたり、流されて一緒にやってよくないことをしてしまったりすることもあります。心の中で、「先生に言った方がいいかな。」や、「友達を止めた方がいいかな。」などの思いがある児童もいます。そのようなとき、その思いに自信をもって、行動に移すことでどんな気持ちになるのか、役割演技を通して、考えることができました。

今回の授業をきっかけに、よくない場面を見た時に、自分が正しいと思った行動を進んで行うことができるように今後も見守りながら励ましていきます。

- 1 講師 東京都小学校道徳教育研究会 元会長 長谷 徹 先生
- 2 主題名 「よくないと 思うことは」(A-I [善悪の判断, 自律, 自由と責任])
- 3 教材名 「どうしよう」
- 4 授業内容



【本時の目標】

善悪の判断をし、よいと思ったことを進んで行動しようとする実践意欲・態度を育てる。

【主な学習活動】

導入

紙芝居を用いて物語を読み聞かせ、興味を惹きつけ、自分のこととして考えられるように工夫しました。



展開前段



物語の中の「よくないこと」とはどのようなことなのか、全員で確認をしました。また、自分のことのように想像しながら、なぜ登場人物が、そのような行動をしたのか考えました。

展開後段

役割演技では、登場人物になりきって考えた行動と台詞を発表しました。実際に演じてみて感じたことや、その演技を見て感じたことを学級全体で交流しました。同じように考えていた児童は、演技を見ながら共感したり、違う考えだった児童は、理由を聞いて反応したりしていました。



終 末



「よくないと思うことを見たら、どうすればよいか」という問いに対して、
・自分の思ったことを信じてよくないことを注意したい
・よくないことをしてしまった友達に、優しく教えてあげたい
・相手も自分もすっきりするように、先生に伝えたい
・自分の考えに自信はないけれど、友達のことを考えて、注意したいなどの考えが出ました。